

# シグマ研究委員会ガンマ線生成核データ W.G.

## 昭和60年度第2回会合議事録

1. 日 時 昭和60年6月7日(金) 13:30~17:30
2. 場 所 原研本部第4会議室
3. 出席者 浅見, 五十嵐, 水本(原研), 肥田, 山室, 川合(NAIG),  
八谷(三井造船), 井頭, 播磨, 北沢(東工大)  
オブザーバー 吉田 正
4. 配布資料
  - (1)  $^{27}\text{Al}$  の核データ評価(播磨)
  - (2)  $\text{Si}$  の核データ評価(北沢)
  - (3)  $\text{Fe}$  のガンマ線生成核データ評価(井頭)
  - (4)  $^{93}\text{Nb}$  のガンマ線生成核データ評価(川合)
  - (5)  $^{238}\text{U}$  のガンマ線生成核データ評価(肥田)
  - (6) ガンマ線生成断面積ファイル化方針の検討会議事録
  - (7) ZPPR-13におけるガンマ線発熱計算
5. 一般報告(五十嵐)
  - (1) 日本と中国間で近く科学技術協定が結ばれる予定であり, その中に核データも含まれている。
  - (2) 核データ研究会の日程。中国から4人参加する予定。
6. 議 事
  - (1) ファイル化に伴ない, 各評価担当者に評価方針を述べてもらった。
    - $^{16}\text{O}$ (浅見) : チャンネル毎に評価を行う。
    - $^{27}\text{Al}$ (播磨) : チャンネル毎に評価を行う。GNASHによる統計模型計算。
    - $\text{Si}$ (北沢) : ガンマ線生成核データはCASTHY及びGNASHによる

統計模型計算。中性子及び荷電粒子放出に関しては直接過程を含め、チャンネル毎の評価を行う。

$^{40}\text{Ca}$  (八谷) : 計算を重視。

Fe (井頭) :  $E_n = 2\text{ MeV}$  以上は nonelastic  $\gamma$  として扱う。

$^{93}\text{Nb}$  (川合) : NAIG のファイル化案に沿って評価を行う。

Cu (山室) : GNASH 計算。

W (浅見) : (n, X  $\gamma$ ) として扱う。

Ta (山室) : GNASH 計算。

Mo (水本) : Howerton の方法で評価。

Pb (水本) : 未定。

U (肥田) : 反応別に multiplicity で与える。

- (2) NAIG の吉田氏により、高速炉心 ZPPR-13 におけるガンマ線発熱は炉心で $\sim 12\%$ 、ブランケットで $35\% \sim 60\%$ であり、数%の精度でガンマ線発熱を把握する必要があることが強調された。また、エネルギー保存を成立させる必要性が述べられ、できるだけ NAIG のファイル化案に沿って評価してほしいと希望が出された。